

DMO NAGASAKI MARKETING REPORT

「令和6年度観光まちづくりマーケティングリサーチ」

2024年長崎市 訪日外国人観光客分析（移動、分布データ）

暮らしのそばに、ほら世界。



NAGASAKI

令和7年（2025年）5月

長崎市に訪れる外国人観光客分析

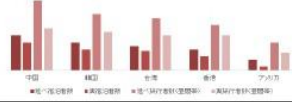
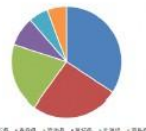
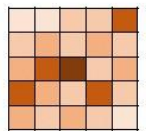
1. 移動分析 2. 分布分析

モバイル空間統計分析メニュー

モバイル空間統計[®]

必須KPIである①延べ宿泊数以外を国内観光客・訪日外国人別に把握可能です。

その他、より地域活性化につなげることができます。

	定量分析	移動分析	分布分析
	どこからどんな人が来ているのか？ どんな人が宿泊しているのか？ 何日間滞在しているのか？ 国内での順位は？  ※国内観光客数 ※海外観光客数 ※延べ宿泊数(観光客数×滞在日数) ※訪日外国人観光客数	自地域に来た観光客は、 他どこに行っているのか？  ※山形県 ※東京都 ※埼玉県 ※東京都 ※北海道 ※福岡県	自地域内のどこに来ているのか？ 
狙い	自地域に訪れる観光客・滞在日数を増やしたい	周遊を促したい	地域内各所を回ってもらいたい
活用例	性年代・居住地・国籍・時期・時間帯別に観光客数・滞在日数を把握 ↓ ・プロモーションの最適化 ・イベント策定	連携が密・疎の他都市を把握 ↓ ・他都市と連携して周遊プランを検討 ・モデルコースの策定	人気エリアを把握、さらに地域内観光地の平均訪問地数を把握 ↓ ・人気エリアを繋ぐ交通網を策定 ・人気エリアの開拓

©2022 DOCOMO InsightMarketing, INC. All Rights Reserved.

13

暮らしのそばに、ほら世界。



NAGASAKI

長崎市に訪れる外国人観光客分析

1. 移動分析 2. 分布分析

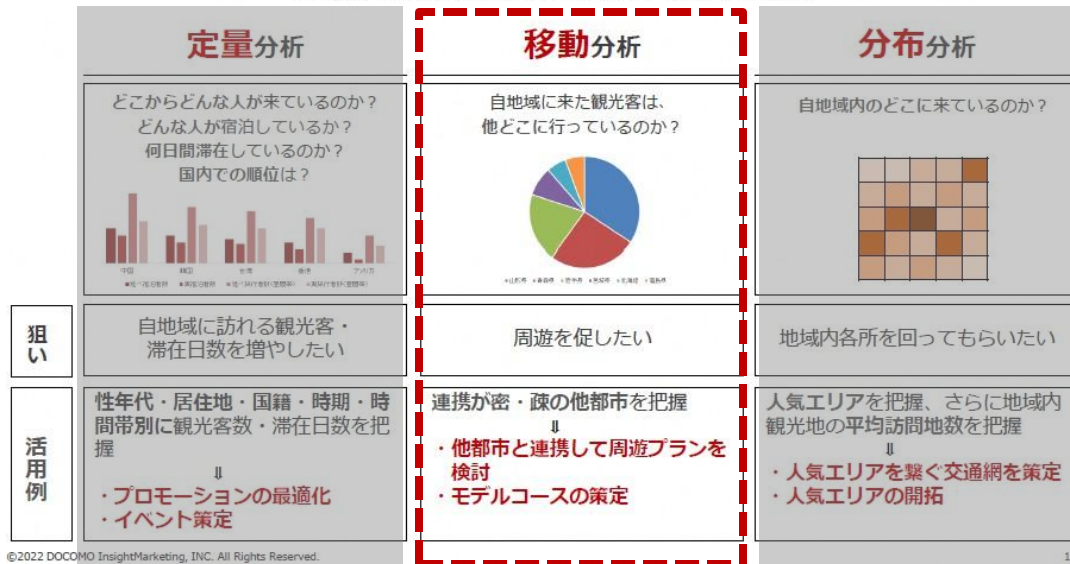
長崎市を訪れた観光客は他どこにいているのか？

モバイル空間統計分析メニュー

モバイル空間統計[®]

必須KPIである①延べ宿泊数以外を国内観光客・訪日外国人別に把握可能です。

その他、より地域活性化につなげることができます。



©2022 DOCOMO InsightMarketing, INC. All Rights Reserved.

13

暮らしのそばに、ほら世界。



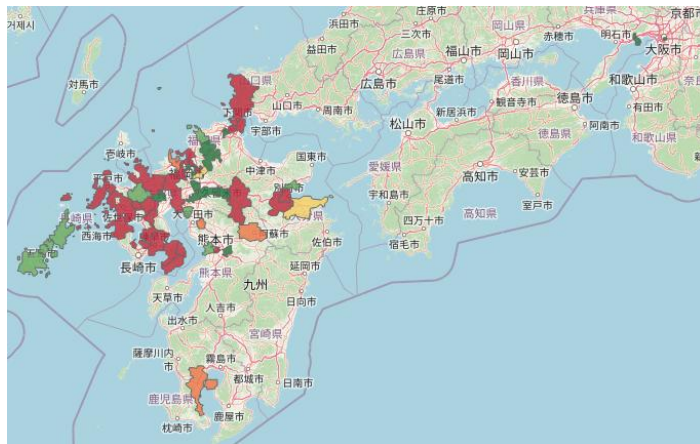
NAGASAKI

1. 移動分析

(1) 東アジア

訪日外国人
30 1,000 人

韓国



● 福岡-長崎を軸とした広域周遊

福岡（特に博多区・中央区）と長崎市を主要拠点として、九州北部を広く周遊。福岡空港を利用して入国し、福岡と長崎を軸に周遊していると考えられる。

● 長崎県内での広範な訪問

雲仙市、佐世保市、大村市、平戸市、島原市、諫早市など長崎県内の複数の市町村が上位にランクイン。

● 温泉地への高い関心

雲仙市、嬉野市、由布市、別府市など温泉地への訪問者が多く、温泉観光が重要な目的の一つとなっている。

● 関西圏への訪問は限定的

大阪市や神戸市といった関西圏の訪問も見られるが、九州と比べて訪問者数は少なめである。

● 福岡を起点とした広域周遊

福岡市博多区と中央区への訪問を最多とし、九州全域にわたる広い周遊範囲が特徴。

● 熊本への非常に高い関心

- ・熊本市中央区（熊本城）が九州内で福岡に次ぐ人気観光地で、他国・地域と比較して熊本市への訪問割合が特に高い。
- ・阿蘇市、熊本市西区、南阿蘇村など熊本県内を広く周遊。

● 温泉地への強い関心

- ・由布市、別府市、嬉野市など温泉地が人気。
- ・特に由布院温泉への訪問者数が他国と比較して突出して多い。

● 長崎県内では佐世保市が突出

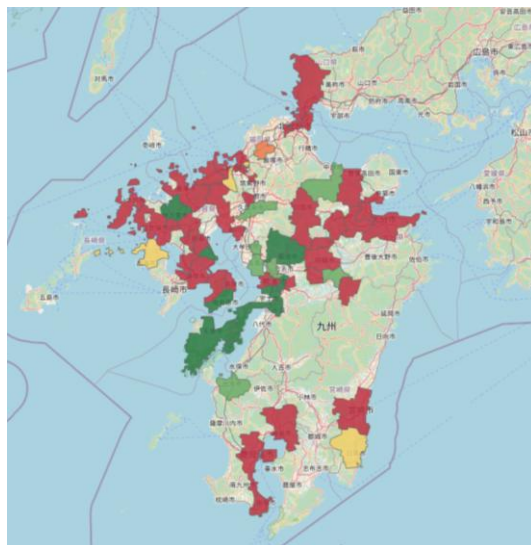
● 文化観光スポットの人気

太宰府市、柳川市（川下り）、北九州市門司区も人気。

● 南九州まで足を伸ばす広範囲な旅行

高千穂町、鹿児島市など南九州まで含む広域的な周遊。

台湾



1. 移動分析

(1) 東アジア

訪日外国人
30 1,000 人

中国



● 福岡を主要玄関口として利用

- ・福岡市博多区と中央区への訪問が最多。
- ・他の地域と比べると福岡への集中度はやや低い。

● 九州と全国の主要都市を組み合わせた広域周遊

- ・九州内の観光地に加え、東京、大阪、京都など日本の主要都市も訪問。
- ・富士河口湖町や倉敷市など全国の都市部から地方の小規模な市町村まで幅広いエリアをカバー。

● 熊本への関心

熊本市中央区が九州内で福岡に次ぐ訪問先も、台湾人ほどの集中はみられない。

● 長崎県内では佐世保市と大村市が人気

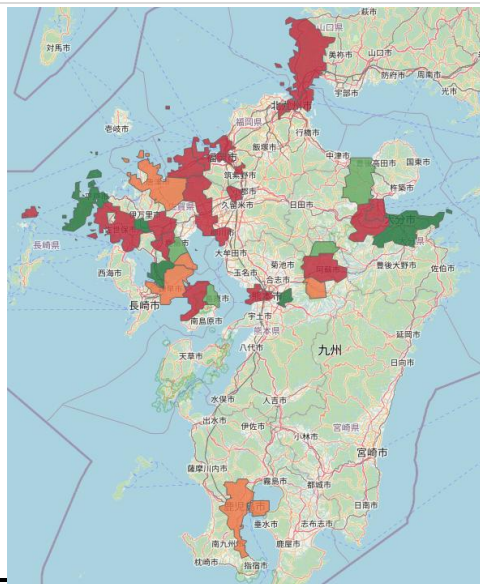
他の外国人観光客と比べ、大村市への訪問が多い特徴。

● 温泉地（別府、由布院、嬉野）への関心が高い

● 南九州・沖縄への訪問、多様な地域への分散

訪問先が特定地域に集中せず広く分散。

香港



● 福岡を主要玄関口として利用

福岡市博多区と中央区が最多訪問先で、福岡市内の他区域も含めた市内観光が目立つ。

● 熊本市への高い関心

熊本市中央区が福岡に次ぐ人気を誇り、熊本城を中心とした観光が人気。

● 長崎県内では佐世保市が突出し、雲仙市も温泉地として人気

● 温泉地への関心が高く、由布市、別府市、嬉野市など温泉地が人気。

● ショッピングスポットへの関心

鳥栖市への訪問が多く、プレミアムアウトレットが主な目的地と推測。

● 文化・自然観光地も人気

太宰府市、阿蘇市、糸島市、柳川市、門司区への訪問。

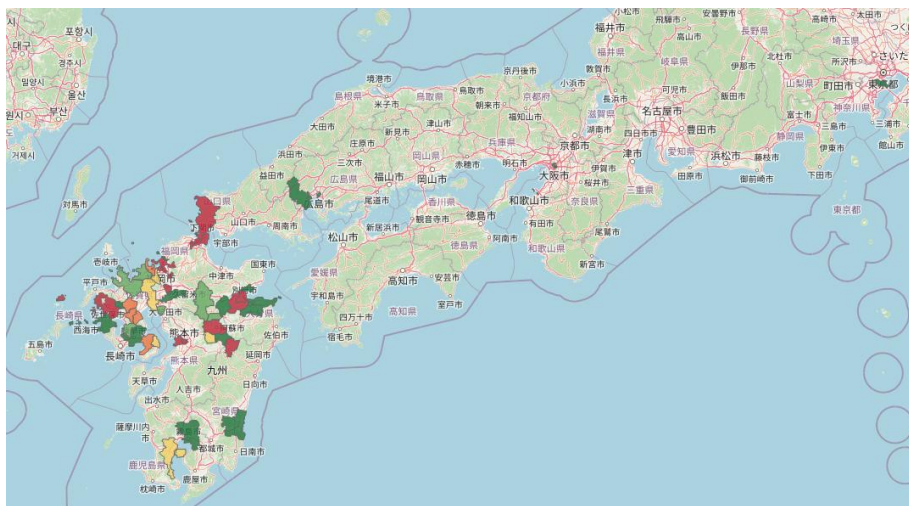
● 周遊範囲の特徴として、主に九州北部（福岡、佐賀、長崎、大分、熊本）を中心に周遊し、鹿児島市など南九州への訪問は限定的。

1. 移動分析

(2) 東南アジア

訪日外国人
30 1,000 人

タイ



● 福岡を主要玄関口として利用

福岡市博多区と中央区が最多訪問先で、福岡市内の他区も訪問。

● 温泉地の人気

- ・由布市と別府市への訪問が多く、大分の温泉地が人気。
- ・嬉野市や雲仙市など他の温泉地も訪問。

● 長崎県内では佐世保市が最多

● 文化・歴史観光地としての太宰府市

文化・歴史観光地として人気の太宰府市が高順位に位置しており、韓国・中国・香港と比べても高い来訪数が特徴。

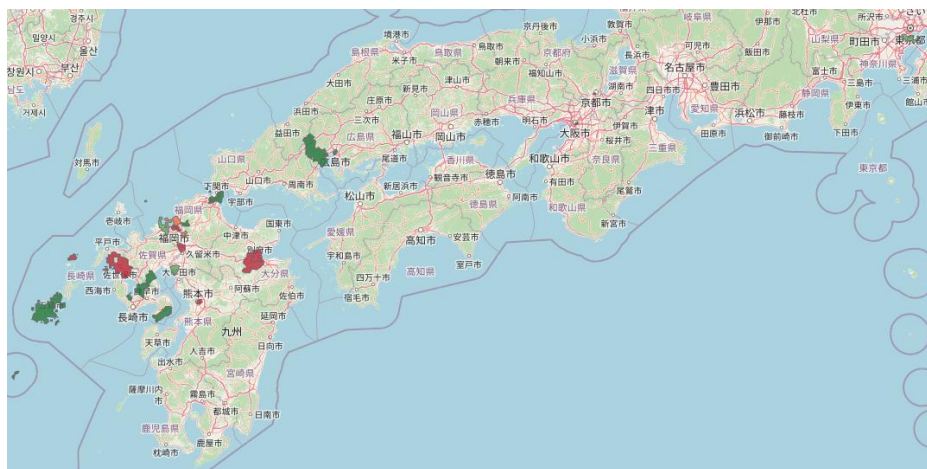
● 自然景観への関心

- ・阿蘇市や南阿蘇村など阿蘇地域への訪問。
- ・高千穂町へも多くの訪問があり、自然景観地に関心。

● 他地域への訪問

東京、広島、大阪などへの訪問も一部見られるが限定的。

フィリピン



● 福岡市の圧倒的な人気

福岡市への訪問が圧倒的に多く、他の地域と比べて福岡市内への集中度が最も高い。

● 限定的な周遊範囲

訪問先が他の国・地域より限られており、佐世保市、鳥栖市、由布市の3市が福岡に次ぐ主要訪問先。

● 長崎県では佐世保市が最多

大村市、五島市、南島原市なども訪問

● 離島への訪問

五島市への訪問があり、離島への訪問が見られるのが特徴。

● 他地域への訪問

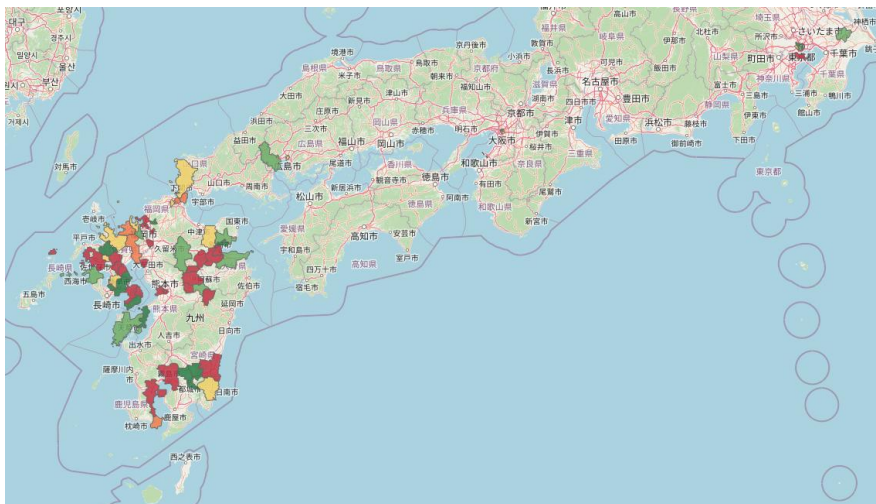
東京、広島、大阪、京都などへの訪問も一部見られるが限定的。

1. 移動分析

(2) 東南アジア

訪日外国人
30 1,000 人

シンガポール



● 福岡を主要玄関口としつつも広域に周遊

福岡市博多区と中央区が最多訪問先も、他国と比べて福岡への集中度は低く、九州全域に幅広く分散している。

● 南九州への高い関心

高千穂町、鹿児島市など南九州への訪問が多く、宮崎市、霧島市、指宿市も人気。

● 熊本と大分温泉地への高い関心

熊本市中央区、別府市、由布市が上位訪問先であり、阿蘇地域への訪問も多い。

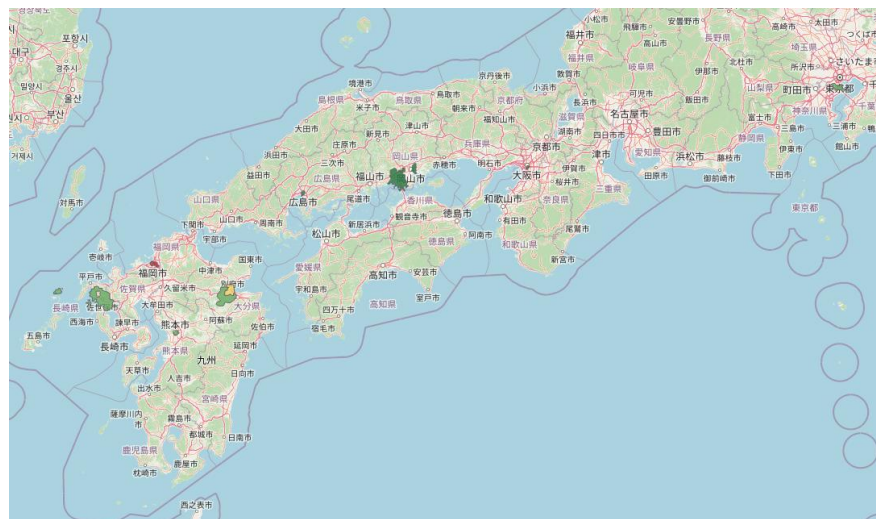
● 自然景観地への強い関心

火山・温泉地域（阿蘇、高千穂、霧島、別府など）が特に人気で、他国と比較して自然観光地への訪問割合が高い。

● 文化観光も重視

- ・太宰府市、柳川市などの文化スポットも人気。
- ・佐世保市や島原市など長崎県内も幅広く訪問。

インドネシア



● 福岡市が最大の訪問地

最も訪問者数が多いのは博多区で、次いで中央区と、福岡市内への訪問が突出。他の地域と比較して訪問先が非常に限定的。

● 限定的な九州内周遊

別府市、佐世保市、熊本市中央区、由布市などの主要都市に限定され、周遊範囲がとても狭い。

● 東京・大阪・広島など他地域への訪問

- ・東京、広島、大阪、岡山などの他地域への訪問がみられる。
- ・九州と本州を組み合わせた広域周遊の可能性。

暮らしのそばに、ほら世界。

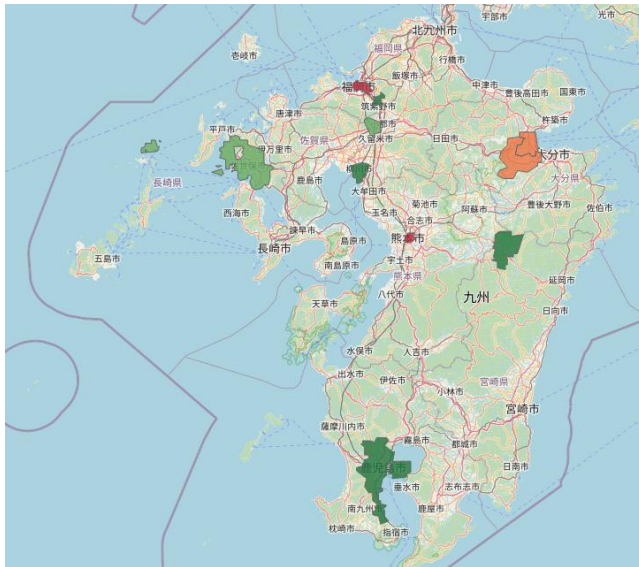


1. 移動分析

(2) 東南アジア

訪日外国人
30 1,000 人

マレーシア



- **福岡市への訪問が圧倒的に多い**
福岡市博多区と中央区への訪問が突出して多く、全体訪問者数の約60%が福岡市に集中している。
- **熊本市への訪問が高水準**
熊本市中央区が第3位にランクイン
- **温泉地への関心も一定水準**
由布市、別府市が上位に入り、大分の温泉地に関心あり。しかし、他国・地域と比較すると少ない傾向。
- **福岡市からの近隣地域への広がり**
福岡市からのアクセスが比較的良好な鳥栖市や、観光地として人気の佐世保市、太宰府市、柳川市などへの訪問も見られ、都市滞在からの短距離周遊ニーズの存在。
また、自然景勝地である高千穂町への訪問も確認されており、文化・自然体験型の観光への興味も一定数存在していると考えられる。

暮らしのそばに、ほら世界。

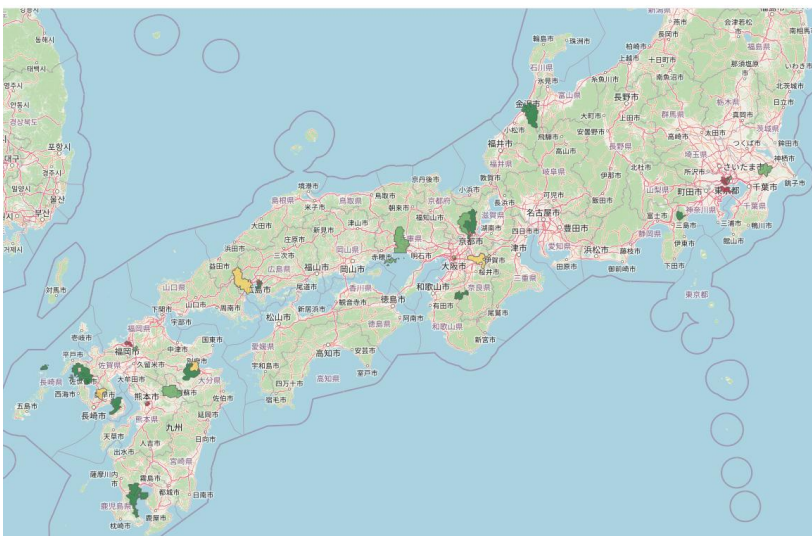


1. 移動分析

(3) 欧米豪

訪日外国人
30 1,000 人

イギリス



● 全国広域周遊型

福岡市博多区を筆頭に、東京、大阪、京都、広島などを広く訪問。

● 首都圏への強い関心

東京の複数区（大田区、渋谷区、千代田区、新宿区、台東区、港区、中央区、墨田区）を広く訪問し、都市型観光の比重が高い傾向。

● 歴史・文化スポットへの高い関心

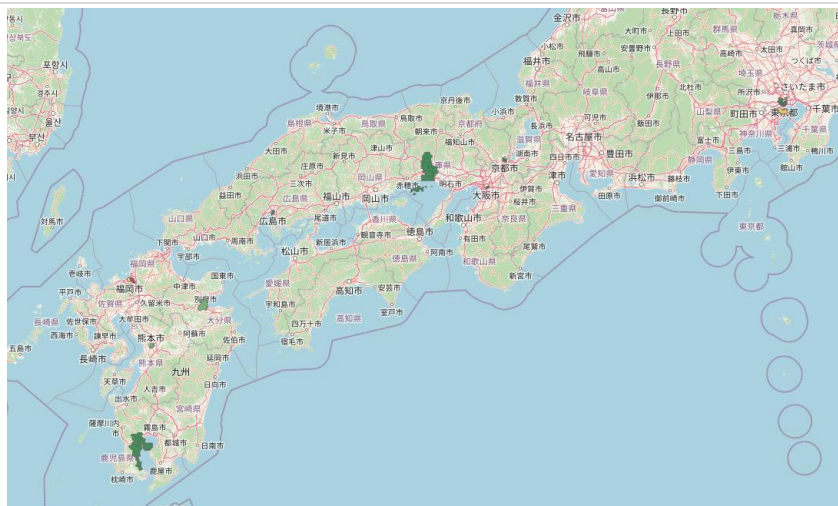
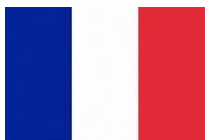
- ・広島（平和記念公園・宮島）、京都の複数区、奈良市、姫路市など歴史的都市に集中。
- ・文化遺産や伝統的な観光地への訪問が目立つ。

● 長崎県内の特徴的な訪問パターン

アジア圏観光客とは大きく異なり、大村市が長崎県内で最多で断トツ。佐世保市や雲仙市の訪問は少ない。

● 温泉地への一定の関心

フランス



● 福岡を主要玄関口として利用

● 日本の「東西軸」を意識した広域的な周遊が特徴的

- ・東京（大田区、台東区、渋谷区など）の複数区を訪問。
- ・京都（中京区、東山区、下京区）の歴史地区。
- ・大阪（中央区）や広島（広島市中区）など西日本の主要都市も訪問。

● 文化・歴史スポットへの高い関心

- ・広島市中区への訪問は平和記念公園・原爆ドームが目的と推測。
- ・京都市の複数区への訪問は伝統的な日本文化への関心を反映。
- ・姫路市への訪問は姫路城（世界遺産）が目的と考えられる。

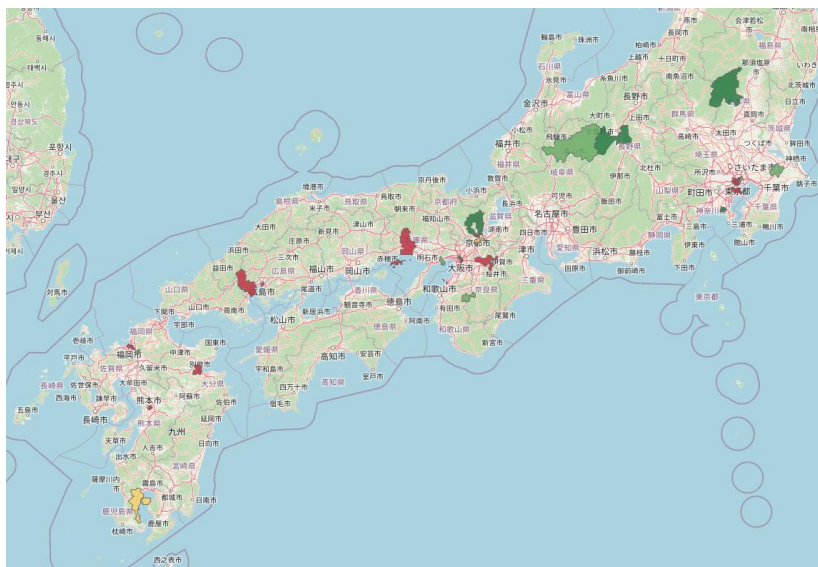
● 九州内での限定的な訪問先

- ・熊本市中央区と別府市が福岡に次ぐ九州内の訪問先。
- ・鹿児島市への訪問 ※長崎県内他市町村のデータは無

1. 移動分析

(3) 欧米豪

ドイツ



訪日外国人
30 1,000 人

- 福岡市への訪問が圧倒的に多い
- 広島市の人気

広島市中区（原爆ドーム・平和記念公園・資料館）や廿日市市（世界遺産の宮島）の訪問が目立つ。

- 東京・京都・大阪の訪問も目立つ

東京都大田区、渋谷区、台東区、千代田区など、東京の人気エリアにも多くのドイツ人旅行者が訪れており、渋谷や浅草、皇居など日本文化の象徴的な場所が訪問先となっている。また、京都市の下京区、東山区といった、京都ならではの伝統文化や寺社巡りを楽しめるスポットが人気。

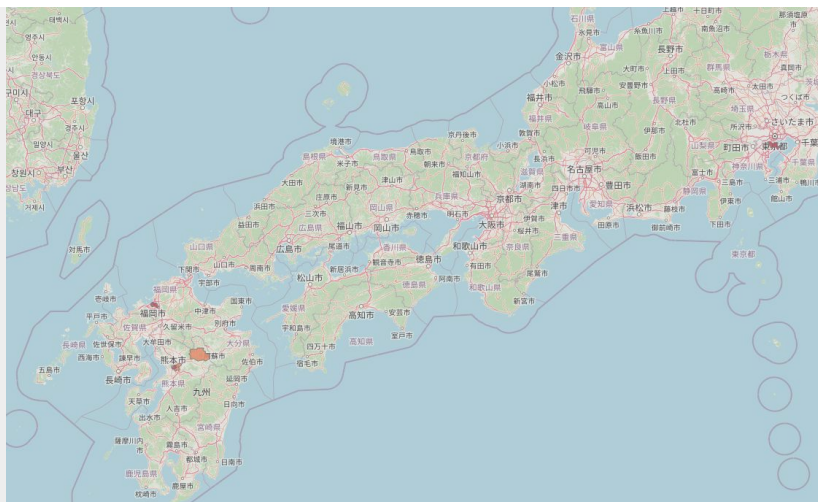
- 九州、別府市が人気

別府市その他、九州全体では、熊本市、鹿児島市、さらに福岡県太宰府市も訪問先としてランクインしており、自然景観や温泉地が人気の旅行先となっている。

- 奈良・姫路の歴史的な名所への訪問

※長崎県内他市町村のデータは無し

アメリカ



- 福岡と東京への強い集中

羽田空港を利用する訪日客にとって、トランジットや前後泊のエリアとして機能。観光地としての目的地というよりは、中継点としての役割。

- 熊本県への注目

熊本市中央区（熊本城）に加え、阿蘇市や熊本市東区といった周辺地域にも多くの訪問があり、自然観光地としての阿蘇山や温泉地、また熊本城といった歴史観光スポットに高い関心。

※データの極めて限定的な性質：

6つの市区町村のみのデータで、全体像を把握するには著しく不十分であり、この限定的なデータから完全な傾向を把握することは困難。

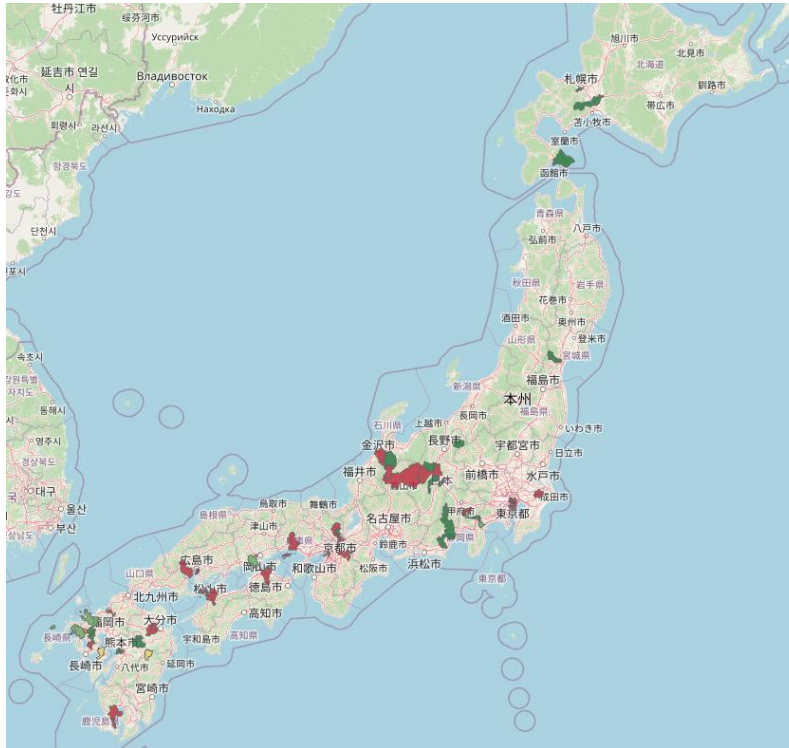


1. 移動分析

(3) 欧米豪

訪日外国人
30 1,000 人

オーストラリア



● 最も広範囲な全国周遊型

- 福岡（博多区、中央区）を起点に、全国各地を広範囲に訪問。
- 九州、関西、関東、北陸、東北、北海道まで日本全国をくまなく周遊。
- 地方都市や農村部まで含む最も幅広い訪問パターンを示す。

● 特に充実した地方訪問

- 金沢市、高山市、松本市など地方文化都市
- 白川村、富士河口湖町など農村部・自然景観地
- 高松市、松山市など四国地方への訪問

● 文化・歴史観光への強い関心

- 広島市中区と廿日市市への訪問が多い（平和記念公園と宮島）
- 京都市の複数区（下京区など）、奈良市、姫路市
- 金沢市、高山市、松山市など地方の歴史都市も重視

● 自然景観への顕著な関心

- 富士河口湖町、白川村、箱根町など国立公園や景勝地
- 高千穂町、阿蘇市など九州の自然景観地
- 長野県の山岳地帯（塩尻市、諏訪市、安曇野市、山ノ内町）への訪問

● 温泉地への強い関心

- 別府市が全訪問先の中で4位と非常に人気
- 由布市、雲仙市、嬉野市への訪問
- 箱根町、南小国町など全国各地の温泉地を網羅

● 長崎県内の特徴的な訪問パターン

- 大村市が長崎県内で最多訪問先
- 雲仙市が次ぎ、佐世保市は相対的に少ない

暮らしのそばに、ほら世界。



長崎市に訪れる外国人観光客分析

1. 移動分析
2. 分布分析

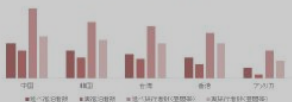
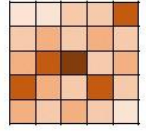
長崎市内のどこに訪れているか？

モバイル空間統計分析メニュー

モバイル空間統計[®]

必須KPIである①延べ宿泊数以外を国内観光客・訪日外国人別に把握可能です。

その他、より地域活性化につなげることができます。

	定量分析	移動分析	分布分析
	どこからどんな人が来ているのか？ どんな人が宿泊しているのか？ 何日間滞在しているのか？ 国内での順位は？ 	自地域にきた観光客は、 他どこに行っているのか？ 	自地域内のどこに来ているのか？ 
狙い	自地域に訪れる観光客・滞在日数を増やしたい	周遊を促したい	地域内各所を回ってもらいたい
活用例	性年代・居住地・国籍・時期・時間帯別に観光客数・滞在日数を把握 ↓ ・プロモーションの最適化 ・イベント策定	連携が密・疎の他都市を把握 ↓ ・他都市と連携して周遊プランを検討 ・モデルコースの策定	人気エリアを把握、さらに地域内観光地の平均訪問地数を把握 ↓ ・人気エリアを繋ぐ交通網を策定 ・人気エリアの開拓

© 2022 DOCOMO InsightMarketing, INC. All Rights Reserved.

暮らしのそばに、ほら世界。



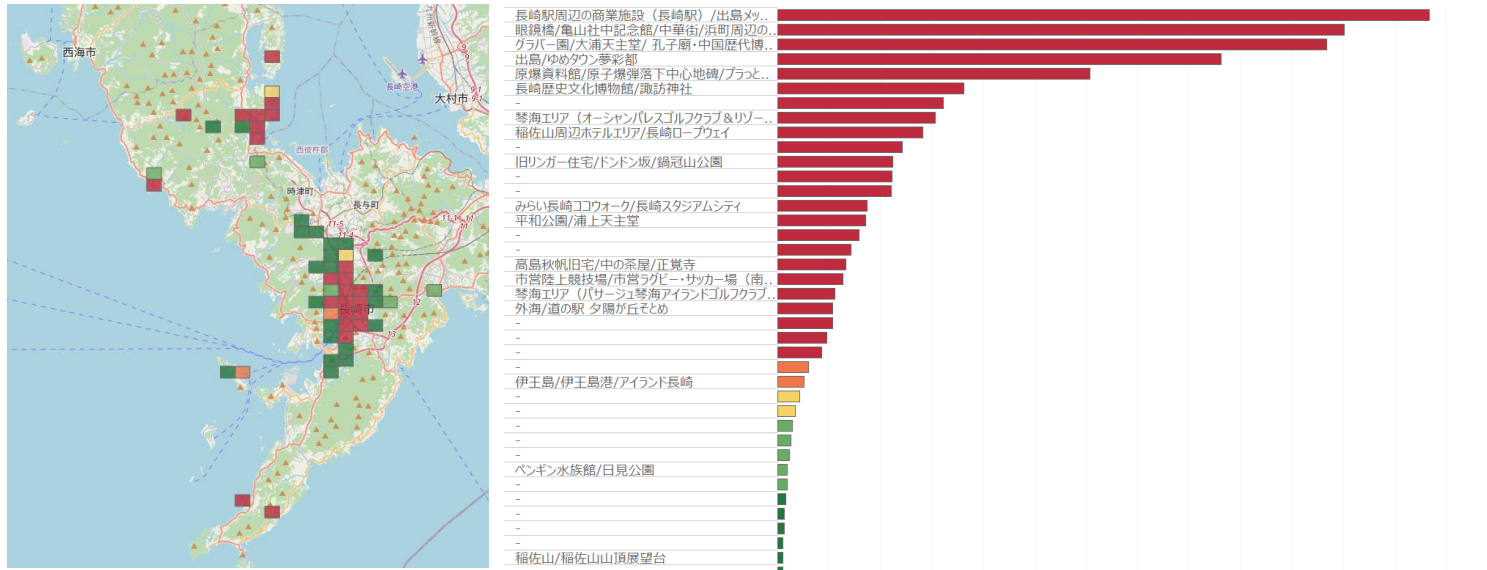
NAGASAKI

2. 分布分析

(1) 東アジア

旅行客数
30 1,500 人

韓国



● 市街地集中型の観光パターンとゴルフリゾートの人気

韓国人観光客の最も特徴的な点は、市街地観光とゴルフリゾート訪問の「二極化」

- ・市街地中心部への集中：上位5エリア（長崎駅～原爆資料館）の訪問者数：全体の約54.2%
- ・ゴルフリゾートへの高い訪問率：全体の約13.3%

この「市街地観光 + ゴルフ」という組み合わせは他のアジア諸国には見られない韓国人観光客特有のパターン。

また、郊外エリア全体では17.6%が訪問しており、これは他のアジア諸国（0.4%～6.5%）と比較して突出して高い数値。

● 歴史・文化観光への高い関心（全体の約44%）

● 夜景観光への限定的な関心

他のアジア圏観光客と比較して相対的に低い。

● 訪問地の多様性

- ・訪問地点数：30以上の異なるエリア
- ・訪問地の多様性：市街地中心部から郊外のゴルフリゾートまで広範囲

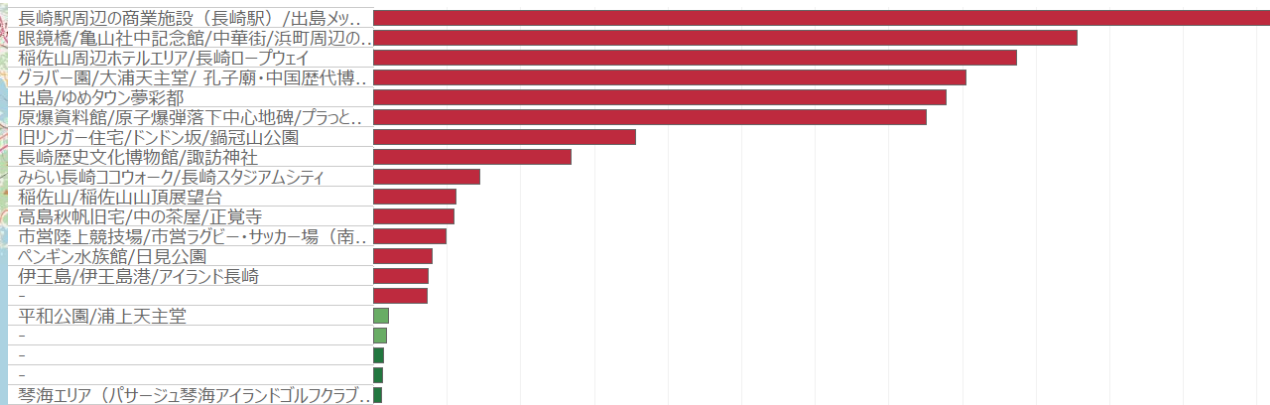
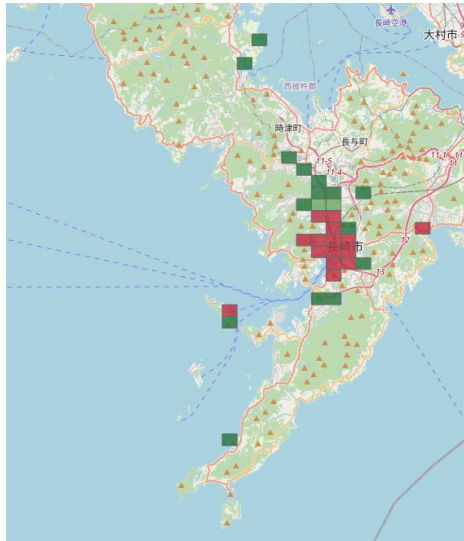


2. 分布分析

(1) 東アジア

旅行客数
30 1,500 人

台湾



● 市街地集中型の観光パターン

主に長崎市の中心部に極めて集中しており、

- ・ 長崎駅周辺エリアへの訪問者が最多 (全体の約25%)
- ・ 主要6エリア (長崎駅周辺、眼鏡橋/中華街、稲佐山、グラバー園、出島、原爆資料館) で全体の約80%を占める。
- ・ 周辺部・郊外への訪問は極めて限定的：郊外エリアでは100人未満の訪問が多く、中心部との格差が顕著 (全体の約2%)

● 夜景観光への突出した関心

台湾人観光客の最も顕著な特徴は夜景観光、特に稲佐山エリアへの高い関心といえる。

- ・ 稲佐山周辺ホテルエリア/長崎ロープウェイが第3位 (18%)
- ・ 稲佐山山頂展望台も含めると約20%が夜景関連スポットを訪問。
- ・ この比率は全アジア諸国の中で突出して高い水準を誇る。

● 歴史・文化観光への強い関心

- ・ グラバー園/大浦天主堂/孔子廟、出島、中華街などの歴史的スポットへの訪問が多い。

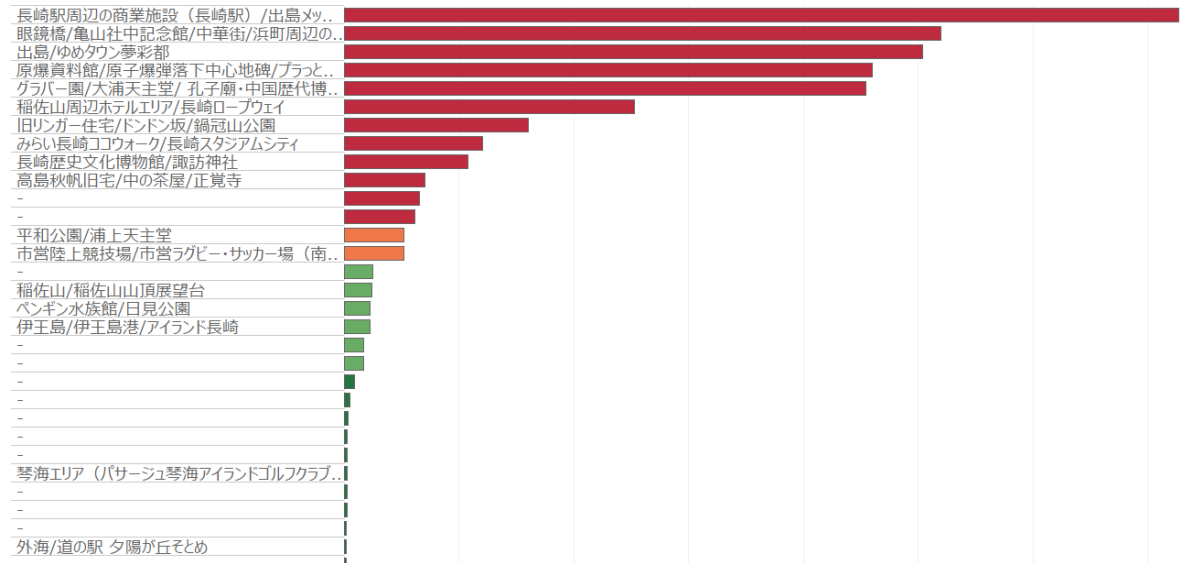
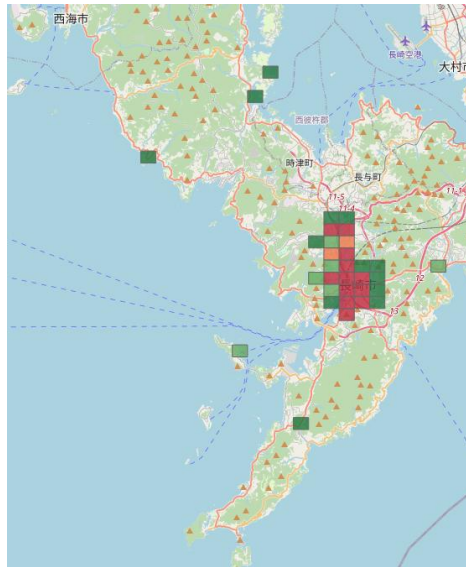


2. 分布分析

(1) 東アジア

旅行客数
30 1,500 人

中国



● 市街地集中型の観光パターン

中国人観光客も長崎市の中心部に集中した訪問パターンを示しているが、その集中度は台湾人や香港人と比較するとやや低く、より分散した訪問傾向がある。

- ・ 長崎駅周辺エリアへの訪問者が最多(全体の約19%)
- ・ 主要6エリア(長崎駅周辺、眼鏡橋/中華街、出島、原爆資料館、グラバー園、稲佐山)で全体の約75%を占める。
- ・ 郊外エリアへの訪問は約1%と限定的。

● 平和学習への一定の関心

原爆資料館への訪問率が比較的高い(11.9%、訪問地第4位)

● 夜景観光への関心度の相違

- ・ 中国人観光客は夜景観光に一定の関心(11.3%)を示しているが、台湾人(約20%)と比較すると大きな差がある。

暮らしのそばに、ほら世界。

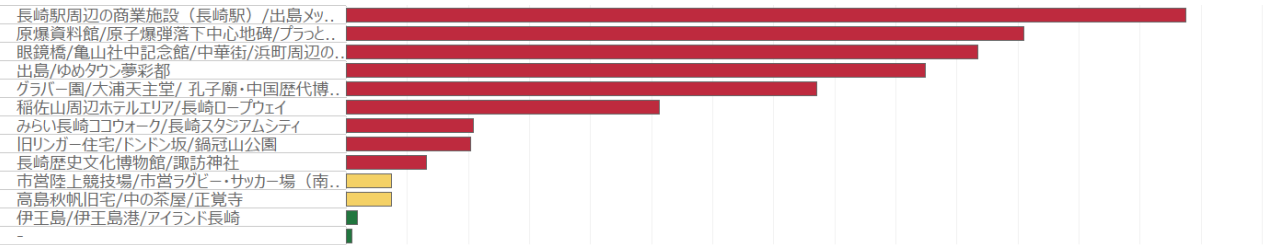
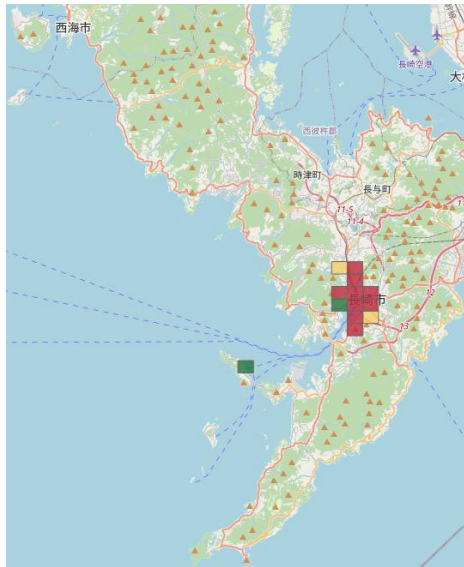


2. 分布分析

(1) 東アジア

旅行客数
30 1,500 人

香港



● 市街中心部への集中と郊外エリアへの限定的な訪問

香港人観光客の市街地集中度は約89%と、台湾人（約80%）や中国人（約75%）と比較しても極めて高く、効率的な市街地観光を好む傾向が顕す。また、訪問地点数自体も13か所と他国と比較して少なく、限られたエリアを集中的に訪れる傾向が見られる。

● 平和学習への顕著な関心

- ・ 原爆資料館を中心とした平和学習スポットへの高い訪問率（約17.1%）
- ・ これはフィリピン人（24.0%）、タイ人（22.2%）、マレーシア人（21.0%）、シンガポール人（20.9%）に次ぐ水準だが、台湾人（15.0%）や中国人（13.2%）よりも高い比率である。特に原爆資料館が訪問地第2位という高い順位は、平和学習への強い関心を示している。

● バランスの取れた市街地観光

市街地の主要観光スポットをバランス良く訪問する傾向があり、特定のスポットへの偏りが他のアジア圏観光客と比較して小さい。

● 夜景観光への一定の関心

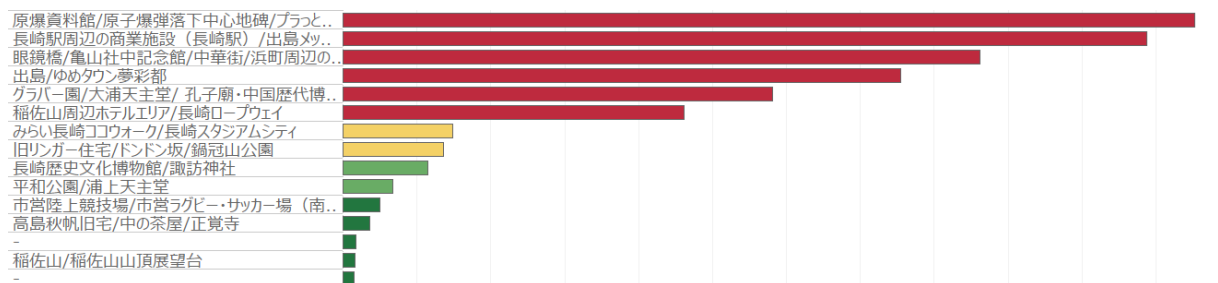
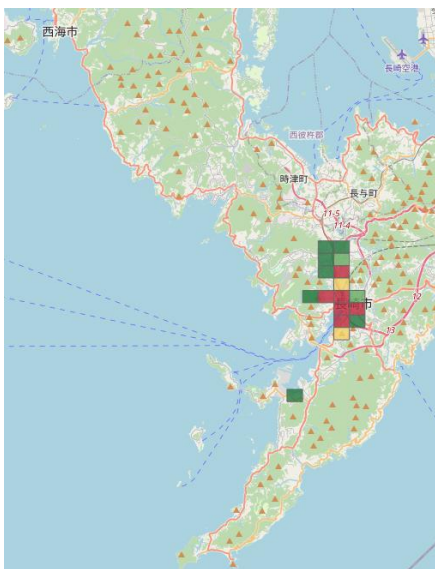
夜景観光に対して一定の関心を示しているが、台湾人観光客ほど顕著ではない。夜景スポットへの訪問比率は全体の約11.1%

2. 分布分析

(2) 東南アジア

旅行客数
30 1,500 人

タイ



● 平和学習へのとても強い関心

- ・ タイ人観光客の最も顕著な特徴は、原爆資料館を中心とした平和学習スポットへの極めて高い訪問率。
- ・ 平和学習スポットへの訪問が22.2%、とこの比率はフィリピン人(24.0%)に次いで高く、他のすべてのアジア諸国を上回る水準。
- ・ 原爆資料館が訪問地第1位という優先順位の高さは、平和学習への極めて強い関心を示している。

● 市街地集中型の観光パターン

他のアジア圏観光客同様、市街地中心部に観光が集中している。

- ・ 上位6エリアで全体の約89%を占める高い集中度
- ・ 上位3エリア(原爆資料館、長崎駅周辺、眼鏡橋/中華街)だけで全体の約56%

暮らしのそばに、ほら世界。

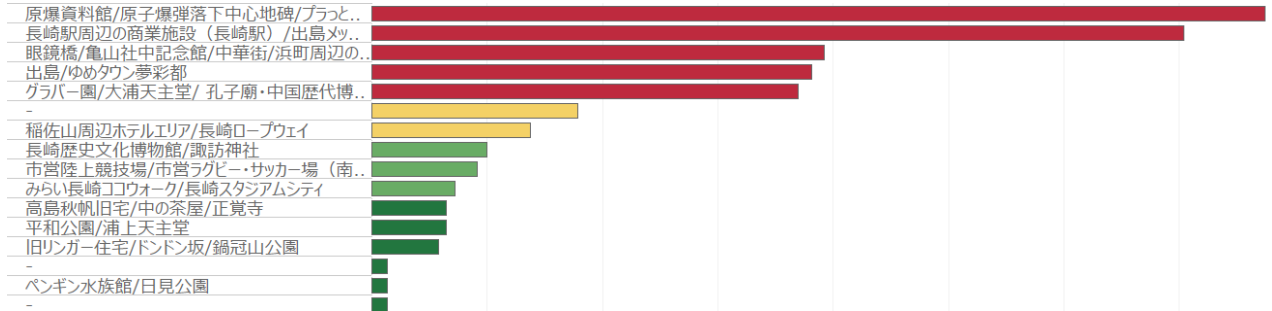
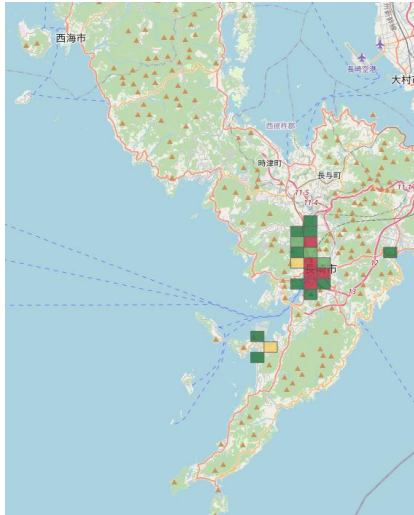


2. 分布分析

(2) 東南アジア

旅行客数
30 1,500 人

フィリピン



● 平和学習への最も高い関心

- ・ フィリピン人観光客の最も顕著な特徴は、原爆資料館を中心とした平和学習スポットへの極めて高い訪問率（24.0%）。
- ・ この比率は全アジア諸国中で最も高く、以下の順。

フィリピン人（24.0%）＞ タイ人（22.2%）＞ シンガポール人（20.9%）＞ マレーシア人（21.0%）＞ 香港人（17.1%）＞ 台湾人（15.0%）＞ 中国人（11.9%）＞ 韓国人（6.7%）

- ・ 原爆資料館が訪問地第1位という優先度の高さも特徴的。

● キリスト教関連施設への関心

● 市街地集中型の観光パターン

他のアジア圏観光客同様、市街地中心部に観光が集中している。

- ・ 市街地中心部への集中：上位5エリア合計（75.2%）
- ・ 上位2エリアへの高い集中：原爆資料館と長崎駅周辺だけで7,391人（42.4%）と全体の約4割を占める。

● 深堀町など郊外エリアへの特徴的な訪問（6.5%）

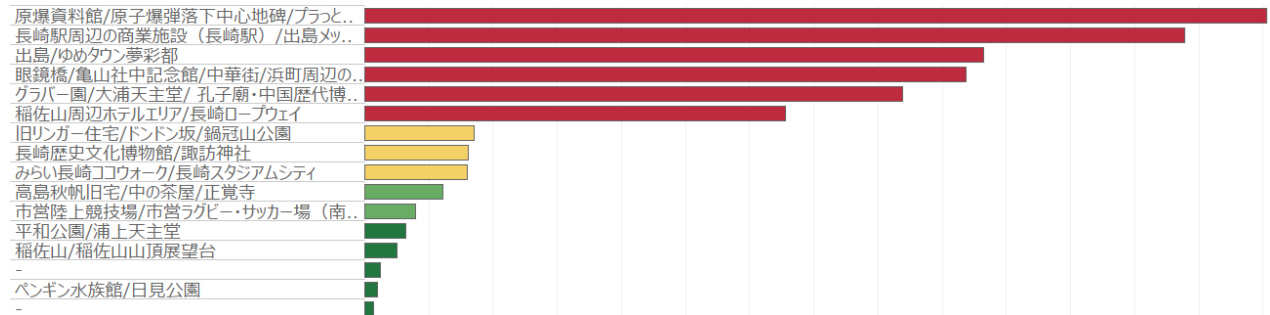
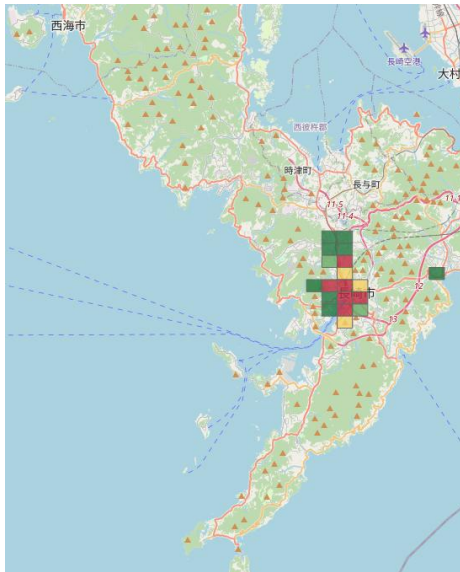
深堀町（5.1%）、その他郊外エリア（岩瀬道町、田中町、香焼町など）：（1.4%）

特に深堀町への訪問者が多いことは、他のアジア諸国には見られない特徴。韓国人のゴルフリゾート訪問を除けば、郊外エリアへの訪問率が最も高いのはフィリピン人である。

2. 分布分析 (2) 東南アジア

旅行客数
30 1,500 人

シンガポール



● 平和学習への高い関心

- ・ シンガポール人観光客の最も顕著な特徴の一つは、原爆資料館を中心とした平和学習への高い関心度。
- ・ 平和学習スポットへの訪問は20.9%と、この比率はフィリピン人(24.0%)、タイ人(22.2%)に次いで高い。
- ・ 原爆資料館が訪問地第1位という優先度の高さも、平和学習への強い関心を示している。

● 市街地集中型の観光パターン

他のアジア圏観光客同様、市街地中心部に観光が高度に集中。この市街地集中度は香港人(88.9%)に次いで高い。

- ・ 市街地中心部への集中：上位6エリア合計86.5%
- ・ 郊外エリアへの訪問の少なさ：0.6%

● 夜景観光への一定の関心

夜景観光への関心(12.5%)は台湾人(約20%)と比較して低いものの、中国人(11.3%)、香港人(11.1%)、タイ人(11.2%)よりやや高い水準。

暮らしのそばに、ほら世界。

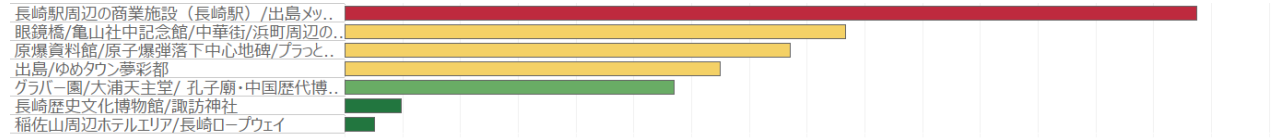
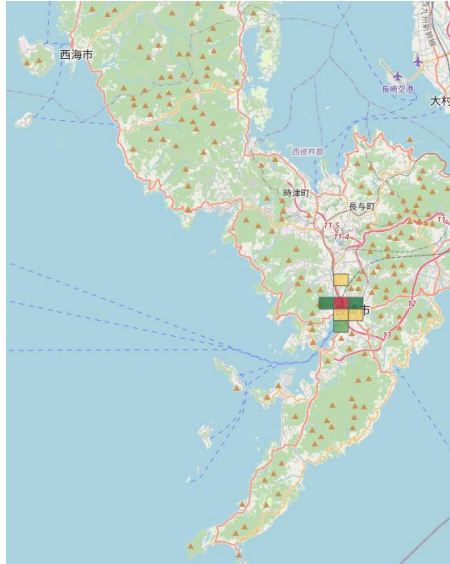


2. 分布分析

(2) 東南アジア

旅行客数
30 1,500 人

インドネシア



● 極めて高い市街地集中度

- ・ インドネシア人観光客の最も顕著な特徴は、市街地中心部に極めて高い集中度での訪問。
- ・ 市街地中心部への集中：上位5エリア合計96.1%
この市街地集中度（96.1%）は全アジア諸国の中で最も高く、マレーシア人（96.2%）とほぼ同水準。
また訪問地点数も7か所と極めて限定的で、他のアジア諸国（台湾人約25、中国人約25、韓国人30以上、香港人約13、シンガポール人約15など）と比較すると、訪問範囲が狭いことがわかる。

● 長崎駅周辺への極めて高い集中

- ・ 長崎駅周辺：32.7%と、全体の約1/3が長崎駅周辺エリアに集中。2位の眼鏡橋/中華街（19.2%）との差が13.5ポイントと大きい。
- ・ この長崎駅周辺への集中度は、全アジア諸国の中で最も高い水準。

● 平和学習への一定の関心（平和学習スポットへの訪問：17.1%）

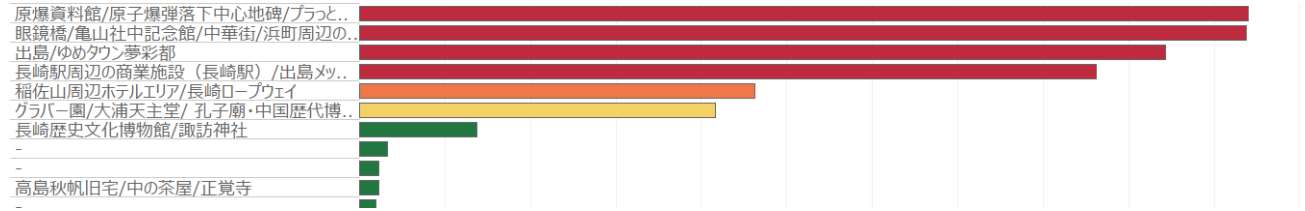
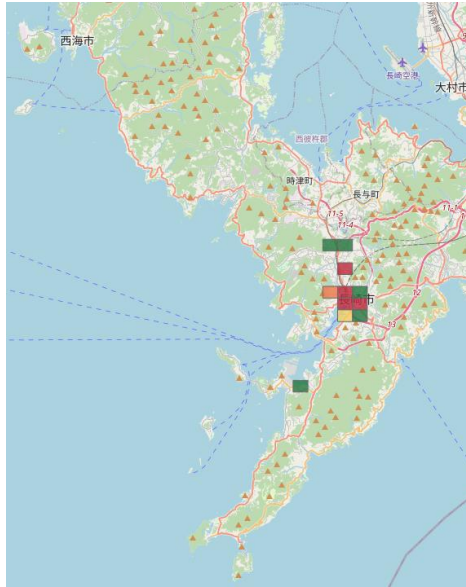
暮らしのそばに、ほら世界。



2. 分布分析

(2) 東南アジア

マレーシア



● 極めて高い市街地集中度

- マレーシア人観光客の最も顕著な特徴の一つは、市街地中心部に極めて高い集中度での訪問。
- 市街地中心部への集中：上位6エリア合計96.2%

● 原爆資料館と眼鏡橋/中華街の同率1位

● 平和学習への高い関心 (平和学習スポットへの訪問：21.0%)

この比率はフィリピン人 (24.0%)、タイ人 (22.2%) に次いで高い。

また、原爆資料館が訪問地第1位 (同率) という優先度の高さも、平和学習への強い関心を示している。

● バランスの取れた訪問分布

- 上位4エリアの訪問比率差わずか3.6ポイントと最も均等

暮らしのそばに、ほら世界。

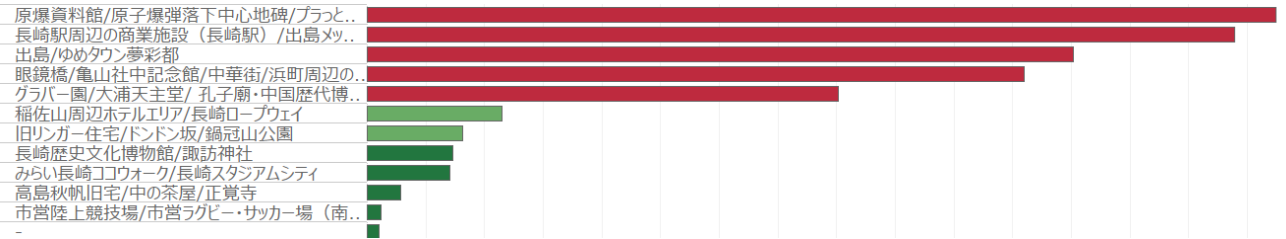
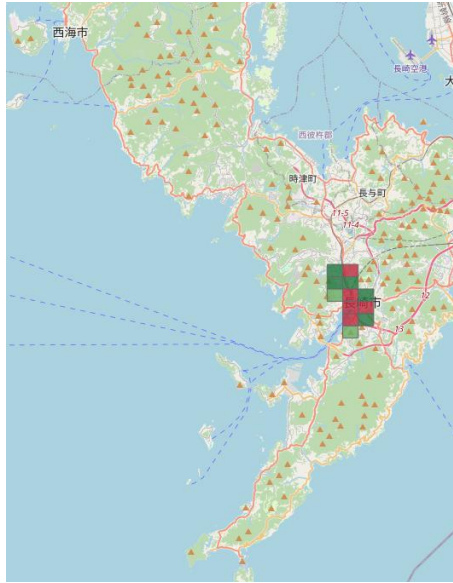


2. 分布分析

(3) 欧米豪

旅行客数
30 1,500 人

イギリス



● 平和学習への高い関心度

- ・ 原爆資料館が訪問地第1位 (22.3%)
- ・ 平和学習への関心が非常に高く、この平和学習への高い関心度は、フランス人 (26.6%) に次いで欧州諸国で最も高く、アジアを含む全体でみてもフランス人 (26.6%)、オーストラリア人 (22.8%)、フィリピン人 (24.0%) に次ぐ高水準。

● 出島への高い関心：訪問地の第3位 (17.3%)

● 効率的な市街地集中型観光パターン

- ・ 市街地中心部への集中：上位5エリア (原爆資料館、長崎駅周辺、出島、眼鏡橋/中華街、グラバー園) で89.0%
- ・ 全体の約92%が市街地中心部に集中

● 夜景観光への限定的な関心

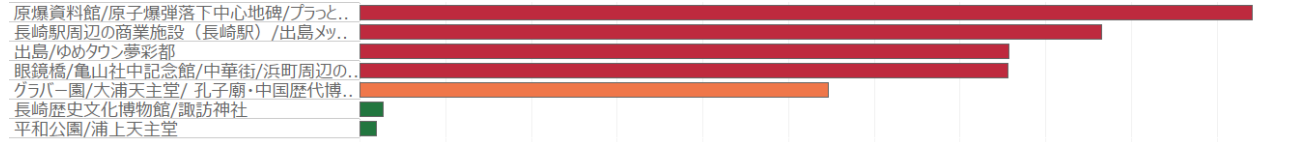
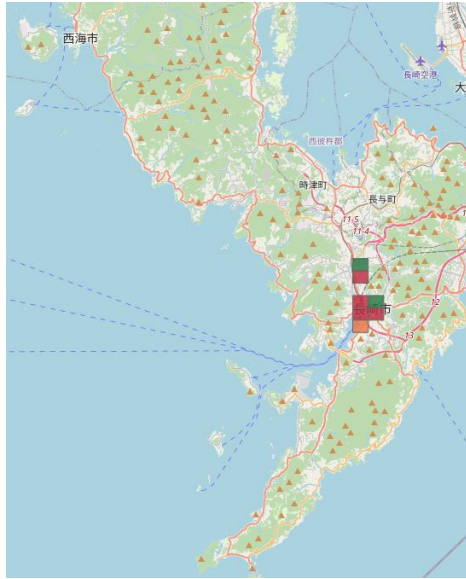
- ・ 夜景スポットへの訪問 (5.6%)
- ・ この比率は台湾人 (約20%) やドイツ人 (12.0%)、オーストラリア人 (9.3%)、アメリカ人 (7.9%) と比較して低く、特に同じ欧州のドイツ人と比較すると半分以下の関心度



2. 分布分析

(3) 欧米豪

フランス



● 平和学習へのもっと高い関心

フランス人観光客の最も顕著な特徴は、原爆資料館を中心とした平和学習への極めて高い関心。

- ・ 平和学習スポットへの訪問：26.6%
- ・ この比率は、分析したすべての国々の中で最も高い水準。
- ・ フランス人 (26.6%) > フィリピン人 (24.0%) > オーストラリア人 (22.8%) > イギリス人 (22.3%) > タイ人 (22.2%) > マレーシア人 (21.0%) ≒ シンガポール人 (20.9%) > ドイツ人 (20.1%) > アメリカ人 (19.0%) > 香港人 (17.1%) > 台湾人 (15.0%) > 中国人 (11.9%) > 韓国人 (6.7%)
- ・ 原爆資料館が訪問地第1位という優先度の高さも、平和学習への極めて強い関心を示しており、全体の約4分の1以上が原爆資料館を訪れるというこの傾向は特筆すべき特徴といえる。

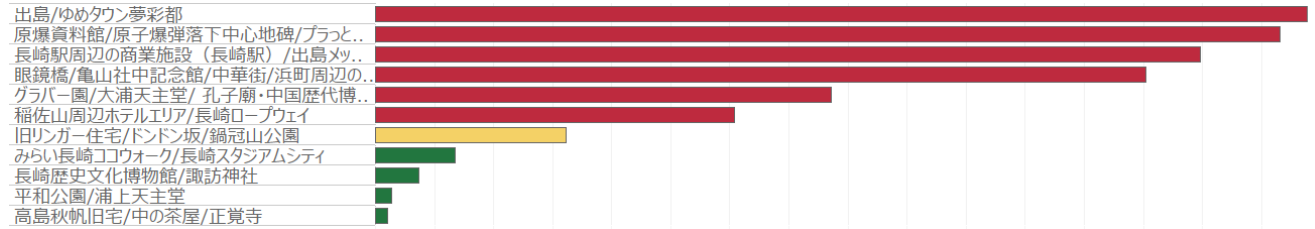
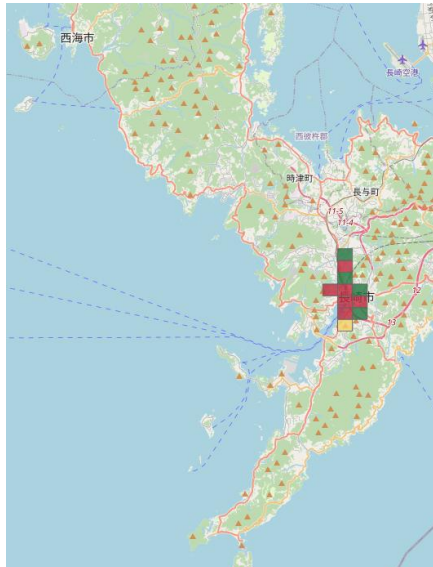
● 極めて限定的な訪問範囲

- ・ 訪問記録のあるエリアは7か所のみ
- ・ 主要5エリア（原爆資料館、長崎駅、出島、眼鏡橋/中華街、グラバー園）で99.5%
- ・ この市街地集中度は分析したすべての国々の中で最も高く、インドネシア人 (96.1%) やマレーシア人 (96.2%) を上回る。フランス人観光客は市街地中心部の主要スポットのみを極めて集中的に訪問していることがわかる。

2. 分布分析

(3) 欧米豪

ドイツ



● 出島への最も高い関心

- ・ドイツ人観光客の最も顕著な特徴は、出島への関心が極めて高く、訪問地第1位となっていること。
- ・これは他のすべての国々と大きく異なる特徴的なパターンといえ、他の国々では原爆資料館（フランス人、イギリス人、オーストラリア人など）や長崎駅周辺（台湾人、アメリカ人など）が第1位であることが多い中、ドイツ人観光客のみが出島を最も訪問している。

● 平和学習への高い関心

- ・原爆資料館は訪問地第2位となっており、平和学習スポットへの訪問は20.2%
- ・この比率は、フランス人（26.6%）、オーストラリア人（22.8%）、イギリス人（22.3%）、フィリピン人（24.0%）、タイ人（22.2%）に次ぐ水準で、他のアジア諸国（香港人、台湾人、中国人、韓国人）よりも高い関心度を示している。

● 夜景観光への相対的に高い関心

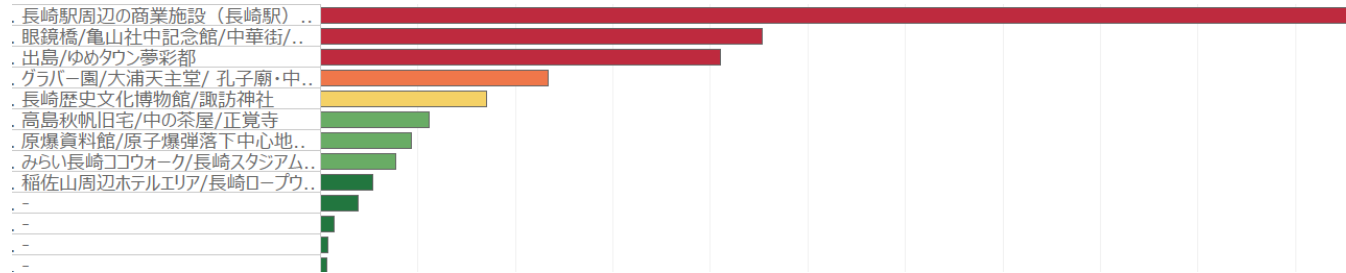
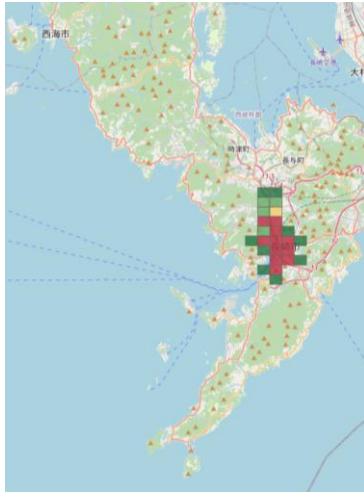
- ・夜景スポットへの訪問（12.0%）
- ・この夜景観光への関心度は、台湾人（約20%）に次いで高く、シンガポール人（12.5%）とほぼ同水準。
- ・特に興味深いのは、同じヨーロッパの国々であるイギリス人（5.6%）やフランス人（0%）と比較して、ドイツ人は夜景観光に高い関心を示している。

2. 分布分析

(3) 欧米豪

旅行客数
30 1,500 人

アメリカ



● 訪問地点の多様性

- ・ 訪問記録のあるエリア：25カ所
- ・ 他の欧米豪諸国と比べ最多（ドイツ11カ所、イギリス12カ所、フランス7カ所、オーストラリア13カ所）

● 長崎駅周辺への高い集中

- ・ アメリカ人観光客は長崎駅周辺が訪問地第1位となっており、中心的な拠点としていることがわかる。
- ・ 長崎駅周辺：19.1%
- ・ これはアジア諸国の傾向（台湾、香港、インドネシアなども長崎駅周辺が第1位または上位）に近く、欧州諸国の傾向（フランス、イギリスは原爆資料館が第1位、ドイツは出島が第1位）とは異なる。

● 平和学習への高い関心

- ・ 平和学習スポットへの訪問：19.0%、訪問地第2位
- ・ ただし、この比率（19.0%）は他の欧州諸国（フランス26.6%、イギリス22.3%、ドイツ20.1%）やオーストラリア（22.8%）と比較するとやや低めであることも特徴的。

● 郊外エリアへの訪問

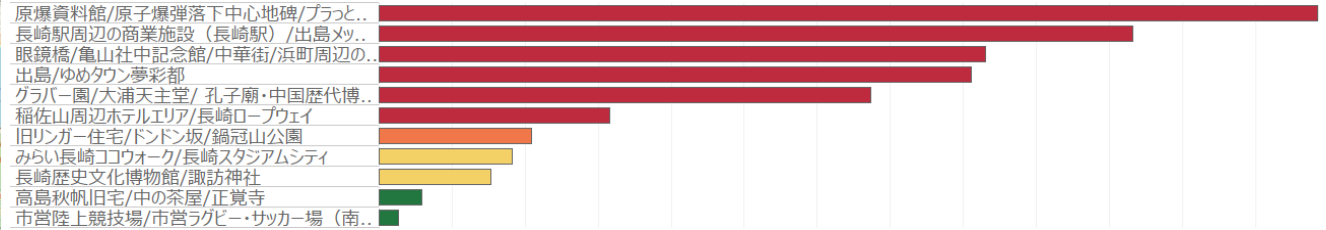
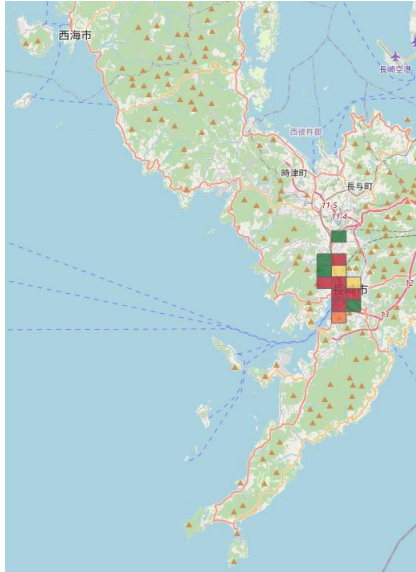
- ・ 郊外エリア合計：4.3%
- ・ 郊外エリアへの訪問も比較的多く見られ、これは他の欧米諸国やアジア諸国と比較して高い水準であり、より幅広いエリアを探索する傾向がある。

2. 分布分析

(3) 欧米豪

旅行客数
30 1,500 人

オーストラリア



● 平和学習への極めて高い関心

- ・ オーストラリア人観光客の最も顕著な特徴は、原爆資料館を中心とした平和学習への極めて高い関心。
- ・ 平和学習スポットへの訪問：22.8%
- ・ この比率は、フランス人(26.6%)、フィリピン人(24.0%)に次いで高い水準であり、イギリス人(22.3%)とほぼ同水準。原爆資料館が訪問地第1位という優先度の高さも、平和学習への極めて強い関心を示している。

● バランスの取れた訪問分布

原爆資料館(22.8%) → 長崎駅周辺(18.3%) → 眼鏡橋/中華街(14.7%) → 出島(14.4%) → グラバー園(12.0%)

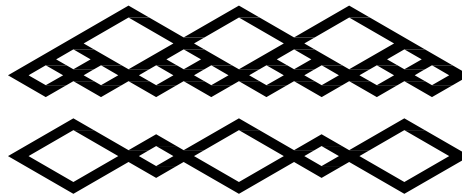
- ・ 上位5エリアの訪問比率の差が10.8ポイント(22.8%~12.0%)と、特定スポットへの極端な偏りがなく、比較的均等に分布している。この傾向は香港人やドイツ人とも共通

● 夜景観光への一定の関心

- ・ 夜景スポットへの訪問：9.3%
- ・ 台湾人と比較すると低いものの、イギリス人(5.6%)やフランス人(0%)など他の欧米諸国と比較すると比較的高い水準にある。



暮らしのそばに、ほら世界。



N A G A S A K I